

惣・皆原地域実質化された京カ農場プラン

市町村名	地域名	(該当集落名)	当初作成年月	更新年月
宮津市	惣・皆原	惣、皆原	令和4年3月	—

1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	5.40 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	4.65 ha
c 地区内における80歳以上の農業者の耕作面積の合計	1.80 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.23 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1.57 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積	

2 対象地区の課題

課題

当地区はほ場整備済みの農地を含む5.4haの内、3.6ha(66.7%)を壮年から70歳代までの農家が耕作しており、5年先までは耕作困難農地の大きな増加はないものの、高齢化に伴って徐々に増えてくると思われる。さらに、後継者等による若返りがないと10年先には70・80歳代が対象農地の95%を占める5.1haまで増加すると危惧されている。

こうした中、後継者が確定している農家は僅かなうえに、10年までに17戸中の5戸の農家が1.7ha余りの縮小や廃業を考えている状況で、新規就農者や半農半Xなど多様な農業従事者の確保や主要農家が効率的に農地を利用できるよう利用調整が必要である。

水田の平均耕作面積は約33a、その内85%強で水稲が栽培されており、残り15%は自家用野菜程度で安定した収益性作物の栽培には至っていない。

また、農家が減少していく中、農地の維持だけでなく農道・水路等の施設管理や獣害対策面においても、地域で考えていく必要がある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中核的担い手を中心に農地集約による農地利用の効率化を進める。